

県産材製材品の表面線量調査の結果について

1 目的

県内の製材工場において、製材品の表面放射線量を定期的に測定し、現在出荷されている県産材の安全を確認する。

2 調査時期 平成27年12月3日～平成28年1月19日

3 調査事業者数

対象工場聞き取り調査の結果、現在県産材を製材、出荷している133事業者について調査した。

4 調査方法（製材品の表面線量調査）

各調査工場の出荷製品について、柱、梁、板材等、品目毎に3検体以上を抽出し、製材品の表面線量（単位cpm）を測定した。

【調査事業者の内訳】

区分	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	合計
事業者数	16	31	18	21	11	11	25	133
検体数(本)	75	242	144	129	66	72	247	975

5 調査結果

現在県産材が出荷されている133事業者における表面線量調査の結果、表面線量の最大値は45cpm（0.001μSv/h\*に相当）であった。

45cpmの測定値について、放射線防護に詳しい、国立大学法人長崎大学 原爆後障害医療研究所放射線リスク制御部門 放射線生物・防護学分野 松田尚樹教授及び 防衛大学校応用科学群 応用物理学科 高田真志教授に確認したところ、環境や健康への影響はないとの評価が得られた。

※参考	震災前の福島市の空間線量	(H22.2.16)	0.04	μSv/h
	東京都新宿区における空間線量	(H26.1.28)	0.035	μSV/h

【調査結果内訳】

区分	表面線量（cpm）				合計
	未検出	～20	～40	40以上	
事業者数	56	69	7	1	133
検体数（本）	726	237	11	1	975

最大値：45cpm
最小値：0cpm
平均値：2cpm

## 6 現在までの調査結果について

区分	調査時期	工場数	検体数	表面線量の最大値 (cpm)	備考
第1回	H23.11.10 ~12.7	31	544	50	県内の主要な工場について実施した。
第2回	H24.1.25 ~3.8	49	321	92	線量の高い県北、相双、県中の一部地域において稼働している全ての工場で実施した。
第3回	H24.6.4 ~7.24	135	1,058	61	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第4回	H24.9.3 ~11.6	156	1,224	51	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第5回	H24.11.22 ~H25.2.4	135	1,177	31	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第6回	H25.3.1~ H25.5.31	121	1,076	35	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第7回	H25.5.27~ H25.7.19	153	1,301	24	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第8回	H25.8.28~ H25.10.30	134	1,124	25	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第9回	H25.11.26 ~H26.1.24	132	1,097	28	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第10回	H26.2.20~ H26.3.26	133	1,078	24	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第11回	H26.5.26~ H26.6.30	144	1,071	28	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第12回	H26.8.28~ H26.10.2	146	1,035	22	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第13回	H26.11.17~ H26.12.22	134	906	28	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第14回	H27.2.10~ H27.3.24	133	955	21	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第15回	H27.6.2~ H27.7.2	147	1,054	41	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
第16回	H27.9.1~ H27.10.8	142	979	41	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。
今回調査	H27.12.3~ H28.1.19	133	975	45	県産材を製材出荷している全ての工場で実施した。

## 7 今後の対応

今回と同様の調査を定期的（3ヶ月に1回）に行い、製材品の安全を確認する。

<参考> cpm（測定値）から $\mu\text{Sv/h}$ への換算表

計測器の指示値 (バックグラウンドを差し引いた値) (cpm)	$\mu\text{Sv/h}$
100	0.0033

独立行政法人：産業技術総合研究所作成